

## 第 2 章 計画の基本的な考え方



## 1 基本的な視点

本計画の策定及び個別事業の実施にあたっては、次の3つの視点を基本とします。

### (1) 子どもの視点

わが国が平成6年に批准した「子どもの権利条約」では、締結国は子どもにかかわる種々の権利が擁護されるように施策を推進し、子ども一人ひとりを「権利の主体」として尊重することが求められています。

そこで本計画では、次の世代を担うのは子どもであることにかんがみ、子どもの幸せを第一に考え、子どもの利益が最大限に尊重されるよう配慮し、子どもの視点に立った取組みを進めていきます。

### (2) 次世代を育成する長期的な視点

子どもは次代を担うという認識の下に、中・長期的な視点に立って、子どもを健やかに育む環境づくりを進めていくことが必要です。

特に、少子化問題はその時々国民意識や社会背景・経済情勢によって、大きく影響されるものであり、また、次の世代へと順次引き継がれることによって改善される問題であるといえます。

本計画は、集中的・計画的な次世代育成支援対策を進めようとするものでありますが、次代を担う子どもの育成は、まさに“人づくり”であり、その成果は短期的に現れるものばかりではないところから長期的な視点に立った取組みを進めていきます。

### (3) 社会全体で支援する視点

子育ての基本は家庭にあります。子どもは社会を構成する重要な一員であることから、子どもを心身ともに健やかに育むためには、家庭はもとより地域、企業、行政をはじめ社会全体が、様々な社会資源を活用し、それぞれの役割を担いながら緊密な連携と協力をもってかかわっていくことが必要です。

また、子育てを行ううえでの男女の固定的な役割分担意識の解消とともに、すべての子どもや子育て家庭の支援にあたっては、“札幌らしさ”に配慮しつつ、質の高い、多様なサービスの提供が求められています。このような対応を確かなものにするためにも、社会全体で支援する視点に立った取組みを進めていきます。

## 2 基本理念

札幌市の次世代育成支援対策の目指す方向性として、次の基本理念を定めました。

### 「子どもの輝きがすべての市民を結ぶまち」

急速な少子化の進行並びに家庭及び地域を取り巻く環境に変化等が生じ、改めて地域の人と人とのふれあいを大切にすることが求められています。

明日を担う子どもたちが、こころ豊かで健やかに育つことは、将来の社会が発展するために欠かせないものであり、そのためにも子どもたちを社会全体で支えていくことが求められております。

札幌市では、地域の人びとの温かいまなざしと支えのなかで、子どもたちの成長していく輝きが、世代を越えたすべての市民を結び、未来を照らすまちを目指します。

## 3 基本目標

本計画の基本理念の実現に向けて、次の5つの基本目標を掲げ、総合的な施策の展開を図ります。

### (1) 健やかに生み育てる環境づくり

すべての子どもの健やかな成長の実現に向けて、安全な妊娠・出産の確保と育児不安の軽減、子どもの疾病の予防などを目的とした健康相談や保健指導の充実を図り、妊娠期から継続した育児支援を推進します。また、男女がともに子育てを担うことへの意識啓発や、親と子が健やかに暮らすことができる地域づくりに取り組みます。

さらに、現在の高い母子保健医療水準の維持に加え、思春期保健対策や児童虐待の発生予防などへの取組みを充実していきます。

### (2) 子育て家庭を支援する地域づくり

すべての家庭が安心して子育てできるよう、社会全体で子育て家庭を支えることによって、子育て家庭が抱える様々な負担感の軽減を図ります。また、女性の社会進出の増加に伴い、子育てしながら働きやすい環境づくりをより一層推進します。

さらに、幼児教育の充実とともに、本来、子育てすることにより享受すべき喜びを十分に感じることができる環境づくりや子育て家庭に係る

様々な地域資源のネットワークがその力を十分に発揮できる地域づくりを進めます。

### (3) 豊かな子ども時代を過ごすための社会づくり

札幌市では、子どもの権利条約にうたわれている「子どもの“最善の利益”を確保することが大人の義務である」をもとに、すべての子どもが持つ権利や自由が最大限に尊重される社会の実現を目指します。

そのために「子どもの権利条例」の制定に向けて、子どもの権利を守り育むために何が必要なのかを子どもを含めた市民と議論しながら取り組み、条例制定後も広く市民への子どもの権利に関する普及啓発を進めます。

また、子どもを犯罪等から守るための活動の推進、被害にあった子どもの保護の推進、男女が協力して家庭を築き、子どもを生み育てる意識の醸成や子どもに関する相談支援体制の充実に努めます。

### (4) 次代を担う心身ともにたくましい人づくり

子どもが自己を確立し、調和のとれた人間として総合的に成長するため、家庭、学校、地域が連携し本来持っている教育力の活性化を図ります。

家庭においては、将来の人格形成の場であることを踏まえ、家庭教育に関する学習機会や情報提供を充実するとともに、親子のふれあいを重視した取り組みを進めます。

学校においては、基礎・基本の確実な定着と個性を生かす学校教育の充実を図り、生涯にわたって自己を向上させる意欲を育てていきます。また、家庭や地域との連携・協力を深め、地域に開かれた学校づくりを推進します。

地域においては、現在の子どものたちに不足しがちな自然体験や社会体験、生活体験などを、地域の教育資源等を活用しながら、子どもが自らの意思で挑戦する機会を広げていきます。

### (5) 子どもと子育て家庭にやさしいまちづくり

子どもを安心して生み育てるためには、安全で快適な居住空間や安心しでのびのびと活動できる都市空間が必要となることから、子どもや子育て家庭に配慮した住環境の充実に努めるとともに、安全で快適に暮らせるまちづくりを推進します。

## 4 計画の体系

